

協働・連携事例集

2023

神奈川県では、**企業、NPO、大学**など多様な主体に出会いの場や学びの機会を提供し、**協働・連携**を促進して、複雑化・多様化する**地域課題の解決**を図ることを目的とした「企業・NPO・大学パートナーシップ支援事業」を2012年度から実施しています。

本事例集には、神奈川県NPO協働推進課へお寄せいただいた協働・連携に関する情報のうち、特にご紹介させていただきたい事例について、関係者のご了承を得て掲載しています。

事例 1	地域のフードバンクとネット通販会社の連携 …………… 1
	認定NPO法人フードバンク湘南×アマゾンジャパン平塚デリバリーステーション
事例 2	地域の障がい者が通所する施設を運営するNPOと地域の企業の連携 …………… 2
	認定NPO法人小田原なぎさ会×株式会社神鋼環境ソリューション
事例 3	荒廃竹林問題解決に向けNPO等が連携「おだわら竹あかりプロジェクト」 …………… 3
	おだわら環境志民ネットワーク有志（NPO法人和の文化塾×NPO法人小田原山盛の会 ×おだわら森のなかま×Team MAMMA MemmA! ×特定非営利活動法人おだわら虹の会 ありんこ ホーム×おだわら市民交流センターUMECO×美しい久野里地里山協議会）
事例 4	地域のデザイナーと地域住民有志が運営する地域の居場所、子育て支援や地域交流を行うNPOの連携 …………… 4
	ICO Design & Photo×鶺鴒沼藤が谷みんなの縁側 ICO Design & Photo×NPO法人とことこ
事例 5	手漉きの和紙作りを通じた市民活動団体、NPO、小学校、行政の連携 …………… 5
	三浦手漉き和紙を考える会×特定非営利活動法人PIARAS×三浦市立初声小学校 ×三浦市市民部市民協働課×三浦市民交流センターニナイテ
事例 6	高齢者のフレイル予防「アンチエイジング体操」に取り組む団体とフードバンクの連携 …………… 6
	社交ダンス愛好家の仲間たち♪Harmony×特定非営利活動法人神奈川フードバンク・プラス
事例 7	専門技術を持つ企業の連携による能登半島地震避難所での被災者支援 …………… 7
	ユーティリティ・ソリューションズ×I・T・O株式会社×株式会社タニモト
事例 8	アートで地域を盛り上げよう！高校と鉄道会社と地域の企業の協働 …………… 8
	県立小田原城北工業高校×株式会社デコリア×伊豆箱根鉄道株式会社×小田原フラワーガーデン
事例 9	乳がん予防啓発団体と企業が連携し、社員向け乳がん予防啓発セミナーの開催や乳がん予防啓発事業等の取組を支援 …………… 9
	KDDI株式会社×一般社団法人乳がん予防医学推進協会



神奈川県 パートナーシップ支援事業

検索





事例1 地域のフードバンクとネット通販会社の連携

認定NPO法人フードバンク湘南
×アマゾンジャパン平塚デリバリーステーション

- 2024年1月に行われた「企業・NPO・大学パートナーシップミーティングin平塚・大磯・二宮」にて、平塚市内で活動するフードバンク団体の認定NPO法人フードバンク湘南と、ネット通販会社の配送に特化した物流拠点となっているアマゾンジャパン合同会社平塚デリバリーステーションが出会い、連携しました。
- 認定NPO法人フードバンク湘南は、品質に問題がないにもかかわらず、廃棄される食品等を企業や個人から集める活動（フードドライブ）、ひとり親家庭や支援を必要とする家庭、子ども食堂等に、フードドライブ等で集めた食品等を無償で配付・配達をする活動等を行っている平塚市所在のNPO法人です。
- 同じ平塚市内に所在するアマゾンジャパン合同会社平塚デリバリーステーションは、パートナーシップミーティングで出会ったフードバンク湘南の活動に共感し、その後、社内でフードドライブを行って集めた食品やベビー用品を、認定NPO法人フードバンク湘南に複数回持参し、寄附しました。
- また、Amazonのアメリカの地域社会貢献チームのメンバーが、何か協力できることはないかということでフードバンク湘南を視察し、フードバンク湘南の現状や問題点を伝える等、意見交換も行いました。アメリカではできる事が日本では法律や仕組みの問題で進みにくい等、今後の課題も見つける事が出来、有意義な時間となりました。
- フードバンク湘南とアマゾンジャパン平塚デリバリーステーションは、同じ平塚市内で活動している団体同士、今後も引き続き連携していく予定です。





事例2 地域の障がい者が通所する施設を運営するNPOと地域の企業の連携

認定NPO法人小田原なぎさ会
×株式会社神鋼環境ソリューション

- 認定NPO法人小田原なぎさ会は、精神等に障がいを持つ方等が社会の一員として 自立した生活を送ることを支援する活動の一環として、障がいを持つ方等が通所する福祉施設「小田原なぎさ作業所」を運営しているNPO法人です。
- 作業所では、作業所の利用者(以下、メンバーと記載)の皆さんが外部企業から受託した電子部品の加工やタオル折り、広告折り等の作業や、習字教室、パソコン教室、清掃等の活動を行っています。
- また、作業所のメンバーが中心となり、ペットボトルのキャップを回収・選別し、キャップ回収企業に引き渡すエコキャップ活動を10年もの長きにわたり継続的に推進しています。上記企業を経て新たな資源に再生すると共に、キャップの売却益を仲介団体へ寄附し、発展途上国等のワクチンが必要なところへ届ける運動に取り組んでいます。
- しかし、コロナ禍に突入して外部企業からの受託作業が激減する危機に陥りました。この困難の中、継続的に取り組んでいるエコキャップ活動で集めたキャップの一部を活用し、キャップ表面にシンプルなデザインを設けた環境にやさしいマグネットに生まれ変わらせることに挑戦しました。まさにSDGsのアップサイクル(Upcycle)製品として、初めての自主製品「エコマグネット」を創出し、この危機を乗り越えました。これによりメンバーの作業を確保すると共に、工賃向上も達成。
- 小田原市内で酒匂川流域の下水処理に携わる株式会社神鋼環境ソリューションは、このような小田原なぎさ会の活動に共感し、社内でペットボトルのキャップを集め、これを定期的に小田原なぎさ作業所へ届ける連携活動を開始しました。
- 今後も、数か月に1回程度、小田原なぎさ作業所に届けることとしており、小田原なぎさ会と神鋼環境ソリューションは、同じ小田原市内で活動している団体同士、引き続き連携していく予定です。



注：上の図及び画像は「認定NPO法人小田原なぎさ会」、
左下の画像は「株式会社神鋼環境ソリューション」の
提供です。



事例3

荒廃竹林問題解決に向けNPO等が連携 「おだわら竹あかりプロジェクト」

おだわら環境志民ネットワーク有志

(NPO法人和の文化塾×NPO法人小田原山盛の会

×おだわら森のなかま×Team MAMMA MemmA!

×特定非営利活動法人おだわら虹の会 ありんこホーム

×おだわら市民交流センターUMECO

×美しい久野里地里山協議会)

- NPO法人和の文化塾は、日本の生活文化の奥深さを発信して伝え、持続させていくことを目的に、小田原市内で活動しているNPO法人です。
- 2021年2月におだわら市民交流センターUMECOで開催された「企業・NPO・学校のつながり2020 in小田原」でできたつながりをきっかけに、NPO法人和の文化塾は、豊かな小田原の自然環境を未来の子どもたちに引き継ぐために活動する人や団体、企業等のプラットフォームである「おだわら環境志民ネットワーク」に入会し、様々な団体とつながりを得て活動に広がりがありました。
- 近年、小田原においては、耕作放棄地や人の手が入らなくなった荒廃竹林の増加が課題となっており、「おだわら環境志民ネットワーク」の参加団体のひとつである、NPO法人小田原山盛の会では、荒廃竹林の再生に尽力しています。その話を聞いたNPO法人和の文化塾が、NPO法人小田原山盛の会ほか、おだわら環境志民ネットワークの有志と連携し、この荒廃竹林の竹を有効活用し、市民が楽しみながら荒廃竹林について考え、課題解決の一翼を担うことができる取組として、2022年度から「おだわら竹あかりプロジェクト」を立ち上げました。
- 「おだわら竹あかりプロジェクト」は、短く切った竹にいくつか穴を開け模様を作り、竹灯籠を作成するワークショップや、夜、作成した竹灯籠に灯りをともし、竹灯籠を多数並べて癒しの空間を演出するイベントの実施により、荒廃竹林の竹を有効活用するとともに、市民に荒廃竹林問題を広く周知する活動をしています。
- 竹灯籠として使用した後は、竹を焼いて竹炭にし、最後まで有効活用することで、循環する環境資源化を目指し、SDGsに取り組んでいます。
- 6月に開催される「小田原城あじさい花菖蒲まつり」やその他のお祭り・講座等で、竹あかりイベントやワークショップを開催し、毎年たくさんの方に来場いただき、大変好評を得ています。
- 今後も、さらに多くの方に荒廃竹林問題を知っていただけるよう、行政や企業、他の団体と連携し、竹灯籠のワークショップや竹あかりイベントを開催し、プロジェクトを進めていく予定です。





事例4 地域のデザイナーと地域住民有志が運営する地域の居場所、子育て支援や地域交流を行うNPOの連携

ICO Design & Photo × 鵜沼藤が谷みんなの縁側
ICO Design & Photo × NPO法人とことこ

- 藤沢市でデジタル技術を用いて印刷物や広告等のデザインを請け負うICO Design&Photoは、その知見と技術を活かし、同じ地域で活動をする団体やNPOと連携し、地域に貢献しています。
- 藤沢市は「地域の縁側事業」を市内36箇所で行っています。そのうちのひとつ、「鵜沼藤が谷みんなの縁側」では、誰でも立ち寄れるカフェサロンや、体操、囲碁将棋、麻雀、社交ダンス、スモーク料理教室などのサークル活動やイベントを週3日開催しており、年間のべ4000人以上の方が利用しています。
- 「鵜沼藤が谷みんなの縁側」では、広報紙「みんなの縁側ニュース」を毎月700部発行し、近隣の4町内会で回覧しています。広報紙の作成にあたっては、「鵜沼藤が谷みんなの縁側」の活動に賛同したICO Design&Photoが、「鵜沼藤が谷みんなの縁側」のスタッフが書いた記事に、写真の撮影・加工、デザインに協力することで、読みやすくおしゃれなデザインの広報紙になっています。
- また、ICO Design&Photoは、藤沢市で子育て支援や地域交流を行っているNPO法人とことことも連携しています。NPO法人とことこは、年間のべ1000人近くの方が利用していますが、毎月のビーチクリーンやお話し会、月に4回開催されている親子の集いをはじめ、季節ごとのイベント、地域を知る街歩きや子ども向け、大人向けの様々な講習会などに関わる案内チラシやポスターの作成を連携して手掛けています。
- ICO Design&Photoは、今後も地域の活動に携わり、地域活動に貢献していきたいと考えています。

※ NPO法人とことこ ホームページ <https://tokotoko.or.jp/>





事例5 手漉きの和紙作りを通じた市民活動団体、NPO、小学校、行政の連携

三浦手漉き和紙を考える会×特定非営利活動法人PIARAS
×三浦市立初声小学校×三浦市市民部市民協働課
×三浦市民交流センターニナイテ

- 三浦手漉き和紙を考える会は、手漉き和紙の普及活動をしている特定非営利活動法人PIARASとの縁で、楮（こうぞ）の木の苗を育てることになったメンバーによって2019年から活動を開始しました。2022年度に三浦市民交流センターニナイテで開催した「ニナイテカレッジ」では、三浦産の和紙作りを地域の魅力として広げていきたいという思いを語って、会の活動に賛同した地域のボランティアや関係者とつながる機会になりました。
- 三浦手漉き和紙を考える会が楮の苗を植えた楮畑の近隣には、三浦市立初声小学校が所在し、小学校では4年生の授業で日本の伝統文化としての和紙について学んでいることから、三浦市市民協働課を通じ、三浦手漉き和紙を考える会と初声小学校との連携が始まりました。
- 三浦手漉き和紙を考える会は、特定非営利活動法人PIARASや和紙職人等の専門家から直接指導を仰ぎ、初声小学校の畑や近隣の土地に楮を植苗し、和紙作りに挑戦しています。日本伝統文化の伝承や地域交流の一環として、初声小学校の子どもたちや先生、有識者、地域ボランティアとの学びを楽しんでいます。
- 2023年度は、三浦手漉き和紙を考える会が初声小学校5・6年生を対象に体験授業を行い、チリより・叩解（たたき）、紙漉きなど、植苗した楮の木から和紙を作る工程を1年かけて実施しました。6年生が1年かけて学び、携わり、作成した和紙は、3月の卒業式で卒業記念として卒業する6年生に渡されました。
- 小学校では、2024年度も1年を通じた総合学習として三浦手漉き和紙を考える会と連携して和紙作りを実施し、来年3月の卒業式に向けて、前年度から5年生と楮の伐採・枝打ちを行い準備しています。
- 小学校関係者・保護者や楮畑周辺地域の人たち、市民活動団体等には紙漉き等の体験会と一緒に参加していただき、三浦手漉き和紙を考える会の活動を理解していただき一緒に支えていただくことで、会の活動の理解者を増やしています。三浦市外、神奈川県外からも見学や問い合わせが来たり、活動に参加されるなど、会の活動の広がりを見せています。





事例 6

高齢者のフレイル予防「アンチエイジング体操」に取り組む団体とフードバンクの連携

社交ダンス愛好家の仲間たち♪Harmony
×特定非営利活動法人神奈川フードバンク・プラス

- 2023年11月に行われた「企業・NPO・大学パートナーシップミーティング2023in横須賀三浦」をきっかけに、横須賀市の衣笠青少年の家（みんなの家）にて「アンチエイジング体操」を開催している社交ダンス愛好家の仲間たち♪Harmonyが、まだ安全に食べられるにもかかわらず、ラベルや包装の損傷などの理由で廃棄される予定の食品を企業から受領し、困窮者支援団体や地域で福祉活動をする団体等へ食品支援を行っている特定非営利活動法人神奈川フードバンク・プラスと知り合い、連携しました。
- 社交ダンス愛好家の仲間たち♪Harmonyが毎月開催している「アンチエイジング体操」を、コロナ禍での高齢者のフレイル予防と心身の健康維持に向けた取組として特定非営利活動法人神奈川フードバンク・プラスが賛同し、体操開催の際に、企業から神奈川フードバンク・プラスに提供されたスポーツドリンク等の飲料を参加者へ提供していただきました。
- この協働・連携の取組で提供された飲料は、参加した高齢者の体操時の水分補給になると同時に、廃棄される運命にある飲料のフードロス削減に協力することができるという点で、双方ともに有益な取組となりました。
- 「アンチエイジング体操」の会場としていた衣笠青少年の家が2024年3月末にて廃止となり、同体操の開催は3月で一旦休止となりましたが、今後は近隣地域の町内会館をお借りして再開の予定です。その際は、また神奈川フードバンク・プラスから「アンチエイジング体操」に参加する高齢者へ飲料を提供していただく等、連携を再開する予定です。





事例7 専門技術を持つ企業の連携による能登半島地震避難所での被災者支援

ユーティリティ・ソリューションズ
× I・T・O株式会社×株式会社タニモト

- 環境保全・防災減災コンサルティングを行うユーティリティ・ソリューションズは「生活用水」に特化した「非常用生活用水浄化装置」を開発し、展開しています。ユーティリティ・ソリューションズが開発した「パウダーコーティングろ過法」で行う「非常用生活用水浄化装置」は、プールや貯水槽、井戸、川・池などの水を使って、飲料水ではなく生活用水の製造に限定することで、消耗品のコストがほとんどかからず、大量の水の製造ができることが特徴です。
- 2024年1月に発生した能登半島地震の後、「非常用生活用水浄化装置」を提供するユーティリティ・ソリューションズ、LPガス機器メーカーのI・T・O株式会社、簡易シャワーメーカーの株式会社タニモト等が機材を持ち寄り、石川県七尾市の小学校にある避難所を支援しました。学校のプールの水を「非常用生活用水浄化装置」で処理し、生活用水用の蛇口3口、LPガス湯沸かし器を通した組立式シャワー、洗濯機、乾燥機、雑用水をパッケージで提供しました。
- 1月下旬から3月下旬の避難所閉鎖まで約2か月間、連携して避難所へ提供しましたが、提供期間中、避難所に滞在した被災者に対し、延べ約95,800リットルの生活用水を提供することができました。被災者からも、「10日以上ぶりの温かいシャワーが最高に気持ちよかった」「シャワーの温度、湯の勢いともとても良かった」などの声をいただきました。
- 引き続き、様々な専門企業や関係団体等と連携し、被災地支援の体制づくりを進めていきたいと考えています。





事例8 アートで地域を盛り上げよう！高校と鉄道会社と地域の企業の協働

県立小田原城北工業高校×株式会社デコリア
×伊豆箱根鉄道株式会社×小田原フラワーガーデン

- 県立小田原城北工業高校デザイン科の生徒たちは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、これまで日々の勉強の成果発表の場であった地域のお祭りのポスター作成やイベント運営の全てが中止となり、活躍の場・表現の場が失われていました。
- そうした地元の高校生の厳しい実情を知った株式会社デコリアが、「限りある高校生活を充実したものにしてあげたい」、「地域企業としてコロナ禍の今だからこそ出来ることがあるのでは」という思いから、以前より交流のあった小田原フラワーガーデンと伊豆箱根鉄道株式会社に呼びかけ、2020年度から地元異業種企業と高校の4者が連携する協働事業がスタートしました。
- 2023年度も「アートで地域を盛り上げよう2023」プロジェクトとして、県立小田原城北工業高校デザイン科の生徒6名が、小田原フラワーガーデンで行うイベント『Tropical Dome Twilight Mission』の告知を、株式会社デコリアが製造した黑板壁紙『Blackboard』※を用いて制作し、伊豆箱根鉄道大雄山線飯田岡駅に掲示する企画を実施しました。
- この企画は2023年度で4年目を迎えましたが、以前この企画に参加した生徒が株式会社デコリアに入社し、後輩たちにこの企画でノウハウを教える、という流れもできました。
- コロナ禍がきっかけとなりスタートした地元3企業と高校の連携事業ですが、今後も継続して連携し、高校生にとっての仲間との絆を深める場、成功体験の場、また地域活性の場として大切にしていきたいと考えています。

※ 『Blackboard』とは、株式会社デコリアが製造し、株式会社サンゲツが販売するグッドデザイン賞・キッズデザイン賞・神奈川なでしこブランド認定商品になった、黑板のようにチョークで自由に描き消しできる壁紙。



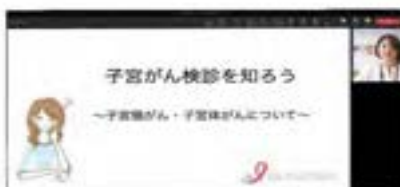


事例9 乳がん予防啓発団体と企業が連携し、社員向け乳がん予防啓発セミナーの開催や乳がん予防啓発事業等の取組を支援

KDDI株式会社×一般社団法人乳がん予防医学推進協会

- 一般社団法人乳がん予防医学推進協会は、乳がん検診受診環境整備、セミナー、イベント、ブレスト・アウェアネス教育事業※を通じ、乳がんに対する認知度を上げ、受診者が安心できる乳がん検診の提供やいまだ低い乳がん検診率の向上を目指す、医療現場で乳がん検診、診療に携わっている診療放射線技師等の医療従事者が立ち上げた団体です。
- 2021年2月開催の「スタディツアー」で一般社団法人乳がん予防医学推進協会が参加者へ協会の取組を紹介したところ、参加していたKDDI株式会社の安全衛生業務に携わる社員が一般社団法人乳がん予防医学推進協会の取組に賛同。2021年から、乳がん予防医学推進協会のメンバーが講師となり、全国のKDDI社員向けに「乳がん予防啓発に関するオンラインセミナー」を3年連続開催しています。この社員向けセミナーは非常に関心が高く、のべ329名が参加し、とても有意義な講座となっています。
- また、啓発事業の一環として、乳がん予防医学推進協会主催の「乳がん検診へ行こう絵画コンクール」に、2021年度からKDDI株式会社も協賛企業として参画し、応募作品の中からKDDI賞を設定、社内で受賞作品を公開し、社内外の乳がん検診啓発活動に貢献しています。
- KDDIでは、社会貢献活動の一環として、KDDI社員が社内外で行ったボランティアなどの社会貢献活動に応じてポイントを付与し、蓄積したポイントを年度単位で金額に換算して社員が推薦する慈善団体などへ寄附を行う「+αプロジェクト」を実施していますが、2021年度から寄附先のひとつとして、一般社団法人乳がん予防医学推進協会へも寄附させていただいています。
- 引き続き、KDDI株式会社は乳がん予防啓発事業の取組を支援していく予定です。

※ ブレスト・アウェアネス教育事業とは、乳がん予防のために、自分の乳房の状態に日ごろから関心を持ち、乳房を意識して生活することを普及啓発する事業。



協働・連携に関する情報をお寄せいただくとうれし
にゃ！



マスコットキャラクター
「かにゃお」